

紫竹学林会通信

2014年12月10日 No.22

2014年度の第30回「紫竹学林会」の会合を2015年1月24日（土）15:30から、大学院棟のある深沢キャンパスにて以下の要領で開催いたします。今回は、第14期OBで寒冷地形分野で多くの論文を発表されている清水長正氏（防災地形コンサルタント）に「最近の風穴への関わり」と題してご講演をお願いいたしました。また同日、地理学教室主催の「修士論文発表会」が「紫竹学林会」の前に開催されます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

なお、会への出欠を1月16日頃までにご連絡いただきたくお願い申し上げます。連絡先は同封の出欠確認用紙に記載してあります。Fax、郵便の場合は、同封の出欠確認用紙をご利用ください。
(幹事)

日時：2015年1月24日（土）

会場：駒澤大学 深沢キャンパス・アカデミーホール2階2-1 会議室

修士論文発表会（地理学教室主催）

【修論発表会】 14:00～15:00（発表15分+質疑5分）

藤田翔平：「近年の東京大都市圏における郊外核と後背地域の関係」	14:00～14:20
朱 偉：「回族居住地域における生活様式－中国嘉興市を事例に－」	14:20～14:40
山村登二郎：「民俗行事の保存と活用－福島県三島町の虫送りと鳥追いを事例に－」	14:40～15:00

紫竹学林会（講演会・総会・懇親会）

【講演会】 15:10～16:40（講演会と総会の会場は修士論文発表会と同じ）

講師：清水 長正氏：「最近の風穴への関わり」

清水長正氏（防災地形コンサルタント）は、寒冷地形の専門家ですが、最近はその関係で「風穴」の研究も進めていらっしゃいます。また、駒澤大学地理学科非常勤講師もされています。

講演要旨：風穴とは、オープンワークの崖錐堆積物などの空隙を空気が低い方へ移流し冷却され、下方の穴から冷風を吐出する場所または現象のことです。江戸中期ころから天然の冷蔵倉庫として利用されてきました。明治期以降、種々の研究が行われています。ここ10年ほど国内の風穴調査に関わっていますが、今回は従来の風穴利用の概要、現在の風穴の状況、最近の風穴調査の実例などを挙げてお話しいたします。

【総会】 16:40～17:00（大学院OB会員・院生）：2014年度会計報告、その他

【懇親会】 17:00～19:30（紫竹学林会会員だけでなく学部卒業生などなたでも参加できます）

会場：駒澤大学深沢キャンパス 洋館小ホール

会費：5000 円（院生・学部生：2000 円）